

豹井野下伊筆記

伊藤文庫

313

附録 聖德太子印筆記

武藏国久良郡

以久庫北修。越後守貞顕是處之佛

各處未肉佛各印大以テ印ヲ踏如左久庫旧地ニ故稱

名寺ニハ當時或云存セリト云リ然レニ問答要ノ

手落ル事古歌ノ歌逸スル惜ムキ一ニテ云ヤ

金澤大庫

佛堂ノ前掛ル銘口ヲ古金鼓凡云ルヤ京師蓮寺銘

地蔵院 奉鑄頭金鼓壹口

正應元年五月廿九日鑄物大工大和権守主師實

榎伊豫風土記云云古有云木ヲ曰梓木下曰臣木下其下

榎今下時下本ノ朽残下ノ者豫勿伊豫郡森村下云地ノ海

岸ヨリ出ツ入同新下云云地下ノ一下百一里程間

堀古より得上人慧... 根之上... 山... 即世... 祐  
... 清ノ王... 相... 記... 極... 勢  
... 怡... 力... 言... 達... 草... 舟... 今...  
... 葉... 因... 画... 語... 東... 坡... 帝... 賦... 舟... 草... 上... 按  
... 如此... 甚... 上... 之... 愛... 坊... 説... 事... 珠... 載... 免... 床  
... 国... 有... 難... 也... 草... 人... 以... 藉... 足... 不... 步... 而... 行... 達... 方... 見... 漢... 武... 帝... 來  
... 自... 以... 若... 此... 魚... 其... 事... 知... 帝... 故... 傳... 踏... 帝... 渡... 江... 是... 也  
... 市... 是... 因... 于... 甚...  
... 像... 應... 真... 之... 像... 下... 画... 皮... 毛... 以... 一... 枝... 長... 益... 其... 外... 凡... 長... 之  
... 画... 之... 毛... 之... 狀... 一... 覽... 云... 剪... 凡... 長... 破... 戒... 之... 相... 也... 欠... 珠  
... 問... 徑... 云... 凡... 許... 長... 一... 指... 捲... 撥... 也... 以... 云... 徑... 在... 之... 下... 也... 一... 也...

海蟾姓劉名嘉... 渤海人也... 會仕... 相位... 系後  
... 印... 納... 于... 終... 南... 山... 入... 道... 于... 學... 于... 仙... 今... 逢... 从... 沈... 嘻... 笑... 人  
... 手... 之... 足... 之... 踏... 于... 持... 于... 是... 于... 弄... 之... 形... 于... 画... 劉... 海... 獻... 蟾...  
... 因... 下... 去... 真... 劉... 海... 蟾... 之... 右... 下... 也... 其... 名... 于... 其... 名... 于... 知... 者... 有  
... 之... 下... 初... 不... 判... 訟... 之... 載... 之... 也...

皇朝ノ画... 伝... 乃... 仕... 家... 之... 唐... 也... 画... 乃... 学... 也... 乃... 将  
... 野... 家... 也... 主... 仕... 家... 之... 和... 画... 之... 将... 野... 家... 之... 唐... 画... 之... 今... 之... 唐... 画... 事... 凡  
... 者... 之... 准... 据... 上... 之... 如... 明... 画... 之... 風... 之... 唐... 山... 之... 学... 之... 者... 之... 絶... 于  
... 每... 下... 画... 院... 何... 甚... 法... 印... 之... 物... 語... 也... 亦... 有... 探... 幽... 出... 之... 也... 乃...  
... 将... 野... 家... 之... 風... 一... 變... 之... 所... 謂... 英... 雄... 之... 歌... 也... 乃...  
... 續... 皇... 紀... 云... 靈... 帝... 公... 于... 五... 月... 乙... 巳... 乃... 在... 下... 登... 師... 悉... 勝...  
... 和... 畫... 師... 也... 乃... 在... 下... 登... 師... 悉... 勝... 乃... 在... 下... 登... 師... 悉... 勝... 乃... 在... 下... 登... 師... 悉... 勝... 乃... 在... 下... 登... 師... 悉... 勝...

姓改為倭画師平真師名

親朝相列鑄名鶴母八階宮宿幕下遠所運の宮

右色可相物之内殘星二坊アリ其後南都平物如之荒星三西脊ノ欠ヲサレカ面ノ方ハ失ヘリ西ハ天德

〇詔ノ四字ヲ録存ニテ書タリ

鉄路

下野国河内郡宇都宮城北若宮山高照院清巖

寺在清金巖下若賀伊賀守梵字三尊像此像

好多汗及四ノ謁珠婆ヲ治鑄スル欠都平隱起ニ入

中湮滅ノ不可讀モ十字字金アリ惜ク造立スル人ノ姓

名ヲ滅ス人ノ帛公細カ造所ト云何據テ詭ト信

シ難シ此塔聖昔ヨリ清巖寺建名遺此辺ノ川中

数百年來深浸セシカ以取大水ノ後去入岨ノ崩ヲ極中片

毎端見出シタリシテ此寺建タルハ也素ク碎錦

ノ故撮攪スル人モ甚シ世ニ知人モ布也字體甚ハ然

頗ル奈良ハノ風

英澤

真列宮城都英澤ノ碑アリ祖元知尚伊禪師定所シ其

殆ト諸難此碑ヲ造リ遠ク此地建タル志趣ハ弘字四年

カセ祖我朝ヲ襲シト欲シ蒙古高ク麓ノ兵ヲタシハ

角嶋ノ澳迄寄來カ月朝日夜颯風忽テ三千艘艘

ヲ覆シテハ十萬ノ兵共ク角敵也三千艘者莫青

千國ノ兵馬五將軍三人ノ祖元知尚伊禪師定所シ其

修時字ノ命三心ノ波也鑄倉向住此歲九兵

覆溺五祥事ト云ハ六經ニ塔ヲ

外奇事有サレハ人ノ白地ヲ読得サレハ

以テ欠ク辰ニ碑額三圓相中林朱羅字ノ題ノ浮

凶ニ換羅字ヲ見レハ或佛ニ達途ノ柱銘 猶モ東粵隱僻ノ

他ヲトメ植久ニ有ケリ主人益亭ナリ者此欠今譯ニ考

證一篇ノ著ス卷ヲ開テ鏡校スレハ大意海志ト氷ノ

如ク釈ノ意ヲ得ノ叔孫通ノ或益亭ノ及子君卿ヨリ

招本亭幅考ノ證ニ冊ヲ得テ架ニ挿シテ得テ其註

誤ヲ撮テ左ニ見ス 字注

日隸文ノ人字ナリ韻道字ノ人字ナリ正韻ノ人字ナリ糾糾通ノ人字ナリ

已篆文ノ人字ナリ止古文ノ人字ナリ山古文ノ人字ナリ虎古文ノ人字ナリ也

譯六見本亭

夫以人直宜從道人正益舉少教之川也 斷日蘇

凶魂尤敢死乃後殞矣 弘安信長五年 款昨仲和彼

岸里未 諸後 讀并

孟子ハイハレテ余ナシト日本ノ袖ノ御意ニ合ハス唐ガリノ載本

ル船有ハ心履履ト云フ古キリ古傳ハ所ナリ去ハ彼書ニ意

船到ス世下成テモ朝廷ニ用サセ玉サリシトハ負幹ト好古日

録ニ詳シ按五雜組卷四地部載ス倭姫亦重傷書信

佛冷凡中國徒居答以重價購シテ獨使孟子云有

携其書往者九輒覆溺此亦奇事也 蘇州府志 卷之四 不知古

本六 惜之曰録ニ此説ヲ脱セリ



弗僅伏助毫力金沢ノ柵ヲ攻ル伴薄金等由曹ノ石ヲ三テ  
キ碎ル所ノ圖アリ據ノ軒ハ九ノ様ニ天ノ日ノ大綱  
ニテ大石ヲ數多彫サテ堀ノ内武者ノ如ク落ノ様ニ捕  
ル丁圖ヲ見テ明ク惟久此片ヲ考テ遠カラ又世ノ人ハ  
其圖スル如徴トスル足レシ

中大系圖ニ内大臣正三位重盛平治年中下向大和國時於宇治

溺死法名津運号中松内方記云三門入水ノ嚙矢ナリ

吹吹嘯雁金ヲ涉或紙ヲ切テ付テ其由来今知人ノ事國瑞法

眼尋シ白物理ヲ識夏月線ヲ涉端端其類陰帳類

ハ載ルヲ見ル端端ハ蚊ヲ喰フ物故厭勝ニ斯レ成レシ

恐レ崎巖容高ク清人莫ク頃此意ヲ悟容ハ端端ノ形

ノ草也各テ吹テ遊完トシテナド有テ好喜ハ此邦ノ吹

嘯ハ毛画ケルヲ轉傳ノイツレカ雁金ト成ケルニヤ巨類抄流流

端端ノ寫意ニテハ如此各々モシレハ也今ノ事

十三徳備中國淺郡ノ佛祖寺ニ空海書キテ將表也ト云夫ノ画像者

トイヘリ其刷印シテ花物ヲ辰者ニ氣韻生動紙表ニ飛芝

スル勢アリ印本スラ如此真物ノ画カ想ヤレシ

右長列彦領内松本村ト云所ニテ製ス彼藩中ニハ松本焼

杉ノ陶工ニ軒アリ以新共漸三輪十藏林坊四郎何レ高

麗ノ種也朝鮮征伐ノ檣ト成テ然レノ有キ事ナリト

今血懸ニテ相流セル坂家計ナリト流ル人ノ地也

瑞南京ノ陶器ニ良大輔祥瑞造ト銘ス各々祥瑞ハ本勢列

ノ瑞

松坂ノ陶工之入唐ノ間彼邦ニテ製シタル物之上云明正徳八年後豐  
年豊永叙国ノ時李春亭ニテ者送別ノ詩有テ今邦ニ再生ノ神  
宮寺ニ藏スト云

白石先生安澹泊答之云新簡出奉人奉碗下品成ヲ不ス

是等モ京都將軍世ノ俗語ト聞エ候ト云

相嵌ト書シ本字可成ト蘭度志生ニキ禪史類編ニテ嘗見

夏雕ノ干支ニ銅土相嵌以金其銀如髪野相嵌今記為高嵌

南安按相商ノ音ヨリ象轉シ嵌ヲ眼ニ讀ムルナラト

海老朝卷海老美家朝臣帶玉ノ物ノ製作ヲ撰シタル也雖其

真物何レ寺社何處美家有云トテ詳ニ其單器方ニ其名

載ス白石先生没後早部景衡カ撰シ津器考ノ因ニ其形

ヲ画シ傳ニ源美家朝臣朝卷ト云ルニテカ所存ヲ不記

彼朝臣ノ事實ヲ徵トスヘキ後三年画此カヲ佩レシ

ヲ画ス夫ヨリ稍後ノ物ナカシ案田口法眼カ美家朝臣馬ノ

図ニ黒漆ノ朝卷ヲ画キタリ散論云此カノ尻ニ分ル大括正者

古ノ画ニ見及ハズ室所比ノ唇ヨリ其名見エ此ヲ修房点此

朝卷モ其時代ニ製シタル物ナルヘシ都テ古画ニ朱漆ノ短カラ

帯シタルハ此ノ皆黒漆也ト予カ為ニ語リ又按貞幹口好古

日録ニ又ニ其ノ指ノ目等ニ云ルハ好古

足利足利野列足利ノ学校ニ淳和帝天長九年八月十日野望勅ヲ

奉シ草創有シ学校也管ニ子孫断テ後文明年中僧快



元儒釋同一子ヲ以テ序序ヲ申與ス夫ヨリ以テ本代僧侶ノ  
住持トシテ慶長年間來地ヲ賜及ヒ法教ノ字ヲ七萬金ヲ  
賜フ此聚珍板ヲ刷印シタル存ラセシ是利本ト云テ寺ヲモ  
山号ヲモテクハ只學校トシテ稱ス

俗諺ニ家ニ久シク持傳タル物ヲ文藝ト云フ其解ヲ得ル者若  
調雅君ノ雜記ニ晝餘揮筆林春ノ説ヲ載玉以テ文藝ト云テ寺院  
ノ什物ヲ云唐土ニテ寺ノ住持カハ什物ノ割符ヲ合セテ付呈ス  
前住ヨリ後住ニ交與故ニ文割ト云ス

東海道  
目見聯武相豆駁遠カ陰參尾勢江雍路中林春翁作此由東見記載  
夕玉 谷川清カ勾玉カ其説精到然民言中華ノ俗及ハス中夜  
亦此頃王子年カ拾遺ノ記見ニ成輿自白玉其石也

而輕シ或以履鳥之狀光澤可愛有類於液仙所用馬忍  
クハ勾玉ノナレト

驪龍  
珠葛西先生云驪龍珠樂谷也馬馬子驪ト云フ龍ニ字馬  
舍利又云佛氏舍利ト稱スル者皆珠也按佛家葬禮ニ舍利ヲ僧  
徒是ヨリ思ヒ分濟ニ死者口中珠ヲ含シテ奈麻後指テ以

テ舍利ト為ナル也

南連歌師阪昌周東都山伏ヤル僞若片隣家老翁ヲ  
好テ位ケルカ長ヲ延ヤスシテ花ヲ開カシトテテ然ニ年ニ切ツメ  
所コニケル程ニ三年ノ後妻ノ父ト為テ唐文名置テト昌

周カケル由杉田老伯老醫ノ物語ナリ

美徑  
之實源廷尉奥列下向片解魔訟師イナ片磨百難ヲ歷テ羽

列至リ是ヨリニテハ秀衡カ領地トシテ旅装ヲ改メ彼館ヘ赴ヘシ

ト主徒ヤツカニ装ムキテ下レケル其時ノ度山形ノ領地七箇寺ニ

一宛傳未ス何レモ紙ヲ張柿添ニ塗ル物ノ美徑ノ笈ハ形テ

内ヲ觀音經ニテ張ト伊勢ニ昂カ笈ハ勝ヒテ大形也トテ予モ新

居氏新居氏ニテ一覽シタリ是レ美徑ノ笈ト云甚殊勝ナル

物ナリ奥羽信天郡佐場野匠寺ヨリ外ノ美徑ノ笈ト傳ル物ト云異ナリ又羽羽秋田

貝原翁ノ知鈞ニ云鬼一洽耶堀州人也兵法ヲ知リ軍法ヲ馬

劍術悉ク人ニ教メ鞍馬ノ衆徒八人傳テ劍術京人流去鞍

馬八人衆徒ノ傳ヘシ流ナリ義經モ其八人内ノ一子也後鬼人

ニ習ヒテ世俗ニ天物ニ逢テ劍術ヲ授ル云虛誕ノ説ニ入

關東七流ト云鹿島ノ神官ヨリ出テ凡劍術ノ流京都

八流鹿嶋七流ヨリ外毎ト以知鈞翁ノ抄録ニ百首此ノ

ノ綴本數十卷有トシ筑前ノ村山芝嶋拔萃シ以流傳此ノ

東都隱士藏六居ナル者古銅印ヲ藏メ其製奇古印大和

者信高ト云ハ林氏可山ノ印ナルトテ予モ秘藏ト云藏六印刻

又云宿家軒カ以氣集ニ求シ林處士和清隱居西湖之孤山

以梅為妻ト以鶴為子ト朝廷賜以粟島ト云是林和清ノ

像ノ像ニ必梅ト鶴ヲ画クコノ權輿成ヘシトナリ

兼稱錄ニ載ス延享中辰來聘鮮人詠歌トシテナリト云

ト云ヤトラスニハ子イキル子イラナヤンハナニト云是ハ韓語ニ詠也

譯文毎ヲ遺憾トス往年或人ノ扇面鶏林ノ立能測字伊集

ナル者ノ平仮名ヲ詠歌ヲ各々ナリ其口氣大ニ熟シタル物ノ明

韓人詠歌

林和清

鬼一洽

日入誰カラニモ知又身ニ友アリ今日日杜惜ケレト音可ト春島  
仲良ノ話シ入中良韓人ノ吞ムル奈ク号ヲ藏ス予モ是ヲ見タリ  
ニ終極シ比ハスガ物ニ多ク取朝鮮聖鈔大伴如此物ノ出度  
沼津彦ノ馬通所  
御宿所中頃白門在當藩ニ在レ片韓人來聘飯国ノ片神山氏ノ劇  
上ノ遠列舞坂驛ニ送リ片人ノ韓人ノ吞ヲ請山ノ島同ク請  
韓人娘石合ヤウモ各母子行る感下云句ヲ吞テ送リシハ  
清人 詠歎 同谷ニ唐土寧ノ波所ノ入長崎ニ在テ詠歎ヲ載ク申ニ心每  
亦ヨリモ庭ノ本草ノ朝夕ノ露入寛政庚子歳安房国立驛ニ  
南宮ノ高船澤着ス彼難商ノ中能日本語ヲ解ス者アリ  
彼カ詠ス歌也トテ房外ノ人ニ聞リノイカテツクツク海ノ荒浪ノ  
人ノ心ニ枯ノ來ヌ間ニ此外ニモ有方志ヲ上テ詠リキ彼人難商ニ

出船ノ後後少屋ヲ取拂タ九路ニテ骨牌一枚ヲ拾ヒタリト今東

都ノ医官桂川氏ニ送リ彼家藏スノ詠リキ其カミキキノ函ニ片侍ニ書キ  
上書タル浪子燕書ノ妙ト云レ

月待待テ多キルベシ津利知ト成ニ明ニ子待テ余已待也余之人推テ

詠歎寛政已酉歲來聘セル美津ノ王子カ詠歎(蒲原)向テ留テ見テ

詠ニ限リキ山ヲ幾重カ詠キテソレトシルキ聖ノ名ニ根安カラセリ

調ニ予琉球人ノ哥若干首模置テ桂林合テ琉球詠多ク

見エタリ南嶺遺稿ヲ以テス僅ニ殘紙トシ依テ  
見聞ノ思ヒ出セルヲ筆記ス 鳴省窓障人

此春ヲ借ウケテ戸開シ早ヌナリ時

文政十三年六月申之十有竹窓ノ筆ヲ収ム

野カ山人

